

インバウンドコラム

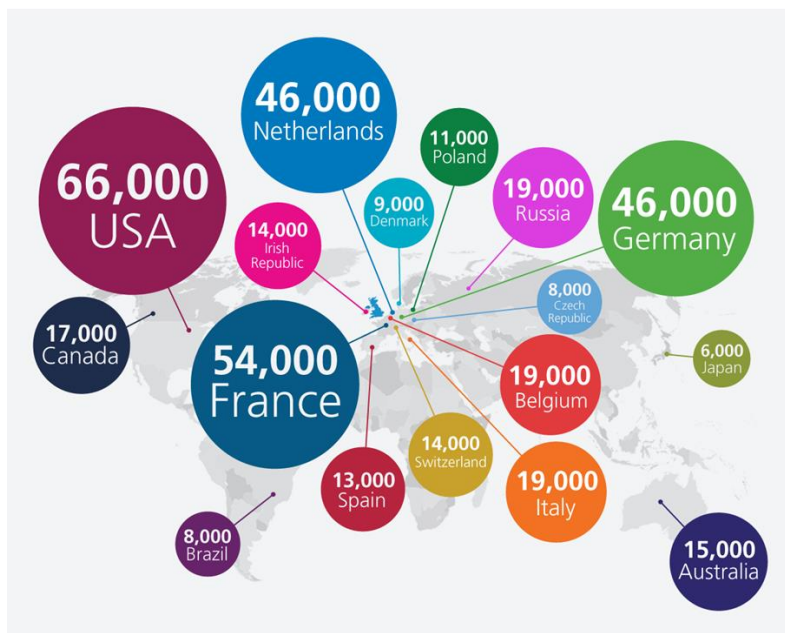
2020 東京オリンピック 開催を願い

2012 年ロンドン・オリンピックの英国インバウンド内訳を考察

2012 年ロンドン大会は、オリンピックを 7 月 27 日から 8 月 12 日まで、パラリンピックは 8 月 29 日から 9 月 9 日までの期間で開催されました。イギリス国家統計局(ONS)が、2012 年通年の英国インバウンド観光への大会の影響を、2012 年の国際旅客調査(IPS)データをもとに分析しレポートしています。

2012 年英国への観光旅行のうち、オリンピック関連イベントへの参加は 698,000 件でした。主にオリンピック・パラリンピックを目的とした訪問は 471,000 件で、別の目的で訪問したけれど、オリンピックのチケット購入や関連イベントに参加した訪問は 227,000 件です。全体の約 4 分の 3 は 8 月の訪問で、残りは 7 月と 9 月にほぼ均等に分散されました。698,000 件のうち 419,000 件はヨーロッパからで、126,000 件が北米から。151,000 件がその他の国からでした。主にオリンピック・パラリンピックを目的とした訪問ソースの 1 位は米国で、フランス、ドイツ、オランダがそれに続きます。ヨーロッパと北米以外では、オーストラリアから 15,000 件、2016 年に次のオリンピックを開催したブラジルからの訪問は 8,000 件でした。(参照※1、図 1)

図1 2012年ロンドン 主にオリンピックを目的として英国を訪問した国・地域別シェア



出典元:ONS

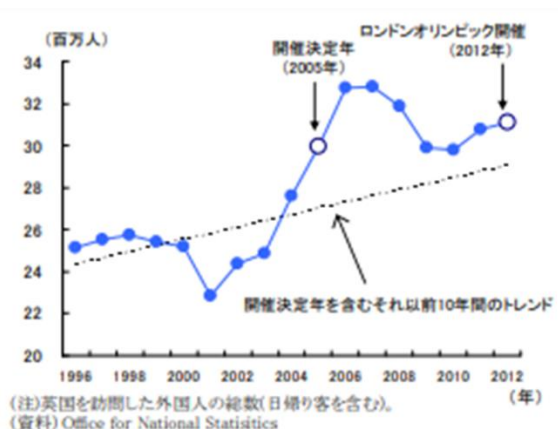
オリンピック・パラリンピックを主な目的として英国を訪れた旅行者は、滞在中に平均 1,553 ポンド(約 25 万円)消費しました。これは同時期に他の目的で訪れた人の 2 倍にあたります。ですが、消費額の高さは滞在期間とは比例していません。7 月から 9 月の全訪問者平均滞在は 9 泊でしたが、オリンピック・パラリンピックを主な目的とする人の平均は 8 泊でした。2012 年中、ロンドンの収益は増加しましたが、他のイングランド地域やスコットランド、ウェールズは恩恵を受けていませ

ん。オリンピック・パラリンピックイベントの大部分はイングランド南東部で行われました。

オリンピック・パラリンピックを主目的で英国を訪れた 471,000 件のうち 77%の 364,000 件が、ロンドンに少なくとも 1泊しました。2012 年のロンドンへの(目的は問わない)訪問数は、2011 年と比較して 1.1%増加しました。ロンドンに1泊以上した訪問に関連する総旅行消費は、2011 年と比較して 7.0%増加し、7 億ポンド(約 9 百億円)でした。ロンドンへの総訪問数は 2009 年から 2011 年にかけて 7.6%増加し、年間旅行収益は 14.2%増加しました。これは英国の他の地域よりも大幅な増加です。英国の他の地域への収益は 1%未満増に留まりましたが、スコットランドへの訪問数は 7.6%減少したものの、収益は 9.1%増加しました。(参照※1)

オリンピック・パラリンピック開催決定後は、開催国のインバウンド需要が長期間にわたって喚起される傾向があります。(参照※2、グラフa)2012 年のロンドンオリンピックの実績から、近隣国と遠方からはアメリカやオーストラリアなど水泳など夏のオリンピック種目に強い国からの観光客数が増え、オリンピックを目的とした旅行支出は高い傾向がみられます。2020 年東京五輪開催については、未だ不透明ではありますが、インバウンド経済回復のためにも、COVID-19 流行の早期収束と五輪無事開催を願うばかりです。

グラフa 英国(2012年開催)のインバウンド観光客トレンド



出典元:みずほ総合研究所

※1 ロンドン・オリンピック 2012 - ONS

<https://webarchive.nationalarchives.gov.uk/20160107134547/http://www.ons.gov.uk/ons/rel/ott/travel-trends/2012/sty-visits-to-the-uk.html>

※2 過去のオリンピックにおける観光の状況 - 観光庁

<https://www.mlit.go.jp/common/001029815.pdf>